

遊びは非認知能力を育む

—非認知能力とは、乳幼児期の環境の遊びの中で育まれる—

園長 山崎立哉

令和2年度は、男児58名女児62名合計120名の子どもたちの元気な声で始まります。

本園では、毎月この「大樹」のおたよりを保護者の皆様へお届けし、本園の教育・保育の内容や園児の誕生日、行事、給食メニュー、お知らせお願い等をお伝えしています。これからぜひお読みいただきますようお願い申し上げます。

子どもたちがこれからの未来を生き抜くために必要なものは、文字や数などを憶えることの前に、目標や目的に向かって努力することができる、人と協力することができる、自分で考える、自分と違う価値観を柔軟に受け止めることができる、今までにない新しい発想ができるなど、このような力が求められています。これが「非認知能力」と呼ばれていて、今、世界で注目されています。

この「非認知能力」とは、認知能力ではない能力という意味で、認知能力とは読み書き計算のような知的能力のことです。今までは、「賢い子に育てる」とは認知能力を伸ばすことだと思われてきました。ところが幼児期に算数や読み書きを早く学んだ子と小学校からスタートした子で、中学校の学力を調べるとあまり差がないことが分かってきました。育ちに合った認知能力を伸ばすことは大事なことです。それ以上にこの乳幼児期は非認知能力（忍耐力・社会性・感情のコントロール）を伸ばすことが大事だということが分かってきたのです。この非認知能力は、認定こども園教育・保育要領では、「学びに向かう力・人間性等」として資質・能力の3つの柱として位置づけられました。この能力は、見えない能力で数値化しにくく、小学校以上では伸びない、この乳幼児期の環境の遊びの中で育まれるものなのです。

これから皆様のお子様が、この吉野ヶ里こども園に通うこととなりますが、私たち保育者はこの観点から、まず子どもたちと保育者が信頼関係を作り、安心して保育者とお友達と一緒に楽しく遊ぶことができ、子どもたちがいろんなことに興味・関心を持ち、体験できるように環境を工夫していきたいと考えています。

保護者の皆様にも、吉野ヶ里こども園の教育・保育にご理解ご協力いただき、保護者と保育者が一致協力して子どもたちをしっかりと育んで行きたいと思っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。